

いしかわ NPOニュース

特集 学生座談会

楽しみと悩みの分だけ成長がある!

学生ボランティアのススメ

● いしかわのNPO

◆ ユニカス会

◆ 公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本
金沢グループ

● 非営利団体のためのQ&A

◆ 教えて! i-ねっとのあおみさん

● [ちょっと気になる、いしかわのNPO]
NPO法人 輪島土蔵文化研究会

● 人 -THE HITO-
池田幸應さん(金沢星稜大学)

● インフォメーション
[セミナー・助成金ニュース]

ふれあう。
ひろがる、
つながる、

あいむ

石川県

URL <http://www.ishikawa-npo.jp>



このコーナーではボランティアや NPO で活躍している個人に焦点を当てます。今回ご登場いただくのは、学生とともに県内外でボランティア活動に取り組んでいる金沢星稜大学人間科学部教授の池田幸應さんです。ボランティアを通し、教育者として教え子に伝えていることなどを伺いました。

THE HITO

vol.6 池田幸應 / Yukio Ikeda
金沢星稜大学人間科学部教授
地域連携センター長

と思います。

そして、ボランティア活動で一番大切にしているのは、地域の方々です。私はそれぞれの地域が持つ最大の資源は、自然でも歴史でも文化でもなく、そこに住んでいる人々の「心」だと思っています。だからこそ、学生には人々の思いに直接触れた上で、笑顔で真剣に個々の役割に向き合ってほしいと考えています。

活動に際し、一緒に“参加させていただく”“学ばせていただく”という謙虚で誠実な姿勢が不可欠だと思います。

最後にメッセージをお願いします。

池田さん●笑顔が第一! 環境保全や交通安全、子どもの育成など幅広くボランティア活動に接してきましたが、「仕事」と思ったことは一度もありません。もちろん、「遊び」という感覚でもない。しっかりと責任を持って、学生と一緒に楽しみながら、地域の方々が喜ぶ姿、その笑顔を見るのが私のやりがいです。その過程で、学生の成長をダイレクトに感じることができる。この瞬間は教師冥利に尽きます。

これからも学生たちの地域活動の支援を続けます。今後はもっと学生たちと子どもたちが協働に関わる活動を推進したいと思っています。次世代の社会を担う子どもたちを育みながら、近い将来親になる学生たちにも、様々な経験を積んでほしい。そのためにも、私自身“子ども心を持ち続けて行きたい!”



池田 幸應さん

金沢市出身。53歳。金沢星稜大学人間科学部教授。金沢大学大学院教育学研究科修了後、金沢経済大学(現・金沢星稜大学)経済学部教授、学生部長などを経て現職。現在は同大学地域連携センター長も務める。専門分野は野外教育学、運動生理学、地域ボランティア学。

このほか、総務省「域学連携」地域づくり活動に関する研究会委員や大学コンソーシアム石川地域連携専門部会長、石川県広域スポーツ支援センタークラブネットいしかわアドバイザー、金沢学生のまち市民交流館運営会議会長、NPO法人いしかわ障害者乗馬を推進する会理事長など、多くの社会活動にも関わる。

趣味は石川県内の海・川・山を舞台にしたアウトドアスポーツ。信条は「子ども心を持ち続けた大人でありたい」。

PROFILE

現在どのようなボランティア活動に取り組んでいますか?

池田さん●金沢星稜大学に着任し、あっという間に29年が経ちました。その間、常に学生たちと共に、野外教育の視点から様々な活動に関わってきました。「学生クリーン・ビーチいしかわ大作戦」などの海岸清掃活動や小学生の自然体験活動支援、金沢市の学生等雪かきボランティア活動、金沢東警察署との交通安全推進運動などをはじめ、穴水町でのボラ待ち樽漁の再興や祭への参加など奥能登地域における地域振興活動や東日本大震災の被災地支援活動などにも取り組んでいます。

活動のほとんどが地域住民や各自治体との連携を図り、いかに学生たちと地域を結びつけるかを大切にしています。学生が自ら

地域に入り、教室や研究室では学び得難い経験を積めるように、常に期待しています。そのために、できるだけ学生たちを前面に出し、支援することに徹しています。次世代を担うべき学生たちが、地域で多くを学び、そして地域もエネルギーな若者で元気になる、そんな場面に遭遇したとき、本当に嬉しいです。

大学でも、私の担当しているゼミナールの学生約25人や顧問を務める「野外スポーツ部」「学生赤十字奉仕団」の学生たち約150名のメンバーが地域において、時には活動の企画・準備の段階から運営に至るまで、積極的に笑顔で取り組んでいます。そして、これらの活動を他大学の学生やより多くの地域の方々などにも呼びかけ、ボランティアの輪が広がることを願っています。

ボランティア活動を通して、学生にはどのようなことを学んでほしいと思っていますか?

池田さん●1年を通して、できるだけ様々な活動に取り組んでいます。なぜなら、活動を通して学生たちが様々な人々と出会い、その中で自分自身の発見や自己適正に気付き、卒業後の地域社会において、その経験を基に本当に好きなことや自分に合う活動に打ち込んでもらえればと願っているからです。

私のボランティア活動におけるキーワードは“子どもたちと自然”そして“次世代育成”です。学生たちは、ボランティア活動を通して、多くのことを学んでいます。学生たちには、自由や権利だけを主張



するのではなく、活動を通して、時には自己の責任や義務を果たす大切さや難しさを学び、これからの社会を担う人材となっ

NPOニュース学生座談会

ボランティア団体を組織して、地域が抱えるさまざまな問題に取り組む学生が増えています。活動内容は多岐にわたり、若い力が各地で根付き始めているようです。今回の座談会では、ボランティアに打ち込む若者に展望や悩みなどを語ってもらいました。コーディネーターは本誌「教えて! いねっとのあおみさん」でおなじみ、いしかわ市民活動ネットワークセンター副代表理事兼事務局長の青海康男さんです。

楽しみと悩みの分だけ成長がある!
学生ボランティアのススメ



能登の農家と学生が
つながり、新しい形の
コミュニティを築ければと
取り組んでいます。

もしもボランティアに
興味があるなら、まず
は気軽に体験から始め
ることも一つの手だと思
います。

自分たちの強みは、
学生主体だからこそ
できる情報発信能力
だと思っています。

里山、お米、足湯、 活動内容はさまざま

青海 本日はよろしくお願ひします。まずはそれぞれの活動内容を紹介してください。

仁志出 学生に里山への興味、関心を持ってもらうため、フリーペーパー『学生 × 里山フリーマガジン atetote』を発行し、その魅力を発信しています。里山は今、高齢化による担い手不足が問題です。そして、新しい世代が育たないと近い将来、存続の危機を迎えると言われていています。しかし、肝心の若者は里山の実態について何も知らない。何かできないかと考えた結果、まずは学生主体でフリーペーパーを制作することから始めました。

森本 ことし4月から能登奨学米（以下、奨学米）の活動を本格的に始めました。東京でモデルとなる事業があり、それを参考にしています。活動の柱は、金沢の学生を能登へ連れて行き、農作業を手伝ってもらうこと。その対価としてお米を受け取る仕組みを構築しました。能登の農家と学生がつながり、新しい形のコミュニティを築ければと取り組んでいます。

宮本 私たち灯は能登半島地震の際、金大の学生有志で発足した足湯サークルです。以来、温かい湯に足を浸け、少しでも良い気持ちになってもらえればと、各地の避難所を訪問しています。メンバーは被災者と積極的に交流するなど、心のケアに重点を置いています。

技術と理想を伝え 後輩に活動を継承

青海 学生の社会活動を定着させるためには、各団体が培った技術や想いを後輩へと継承できるかどうか、一つのカギになるでしょう。皆さんは自分の所属する団体の今後について、どのような将来像を描いていますか？

仁志出 自分たちの強みは、学生主体だからこそできる情報発信能力だと思っています。里山と人をつなげるため仲介役として、フリーペーパーがあるわけです。メンバーはみな里山やデザイン、企画に興味があるなど、明確な理由と目的を持って参加しています。創刊号を発行したことで、今後も続ける自信ができました。

森本 私たちは年4回、七尾市中島地区で農作業を手伝わせてもらっています。奨学米生は私も含めて14人。メンバーの大半が農作業は未経験で、毎回の作業や地元の方との何気ない会話に新たな発見があります。能登で得た感動や楽しさを伝えることが新しい人を呼び込むきっかけになると期待しています。

青海 個人の想いだけで長く活動を続けることは困難です。一方で、しっかりとしたシステムがあれば、発足当時の学生メンバーが卒業した後も、後輩は集まるのではないのでしょうか？

森本 そうですね。まだプログラムづくりなど試行錯誤を繰り返しています。

青海 一方で灯のメンバーは先輩から、多くを学んだはずですが。最近ではメディアにも取り上げられ、日本財団から助成金を受けるなど、注目も浴びています。活動期間が長い分だけ、継続の苦勞も知っているのではないのでしょうか。

宮本 私の代は最初、人が集まらなくて一時はとても

不安になりました。しかし、足湯の良さを分かってくれた学生が次々とメンバーとなり、人手不足も解消されました。足湯は足を温めるだけではありません。心のケアにも有効です。私自身、能登半島地震の被災者として足湯に浸かり、その効果は十分に知っているつもりです。震災の時に受けた恩を返せればと、大学入学と同時に灯に参加しました。

青海 灯は被災地支援の枠を超え、金沢の町内会でも足湯ボランティアを始めました。自ら新たなニーズを見つけて、地域社会で応用しています。今後についてはどのように考えていますか？

宮本 各地での活動中、地域のコミュニティづくりに足湯が役立つのではないかと声を聞き、被災地以外でも活動を始めました。もちろん、能登や東北でも続けます。

資金集めは難しい 苦勞は組織を強くする

青海 さて組織の姿を公にするのは、客観性を保つ上でとても重要です。例えば、NPO 法人なら会員が何人で、予算がいくらか、どういうシステムで物事が決まっているかなどを公開し、誰もが調べれば分かるようになっていきます。しかし、任意団体の皆さんについては、そこまで分からない。活動を続ける上で、とくに財政的基盤は大事です。フリーペーパーの制作費はどのように集めました？

仁志出 自分たちで広告を取りました。本当は補助を期待していたのですが、直前で受けられなくなって…。そこから約2週間、一心不乱に各方面を回って協賛を募りました。

青海 年2回の発行を予定しているようですが、今後も続けられそうですか？

仁志出 もちろん、そのつもりです。財政面で苦勞

仁志出 憲聖(にしでけんせい)



atetote(あてとて)編集室
発行人・創刊号編集人

「学生が、学生に伝えたい里山の魅力」を発信するためフリーマガジンを発行している団体。企画、取材、デザインなど、すべての制作工程を学生有志が主体となって実施している。



することは最初から分かっていました。実際に創刊号はさまざまな方の力を借りることで発行することができました。ただし、それは私個人の想いや情熱に賛同していただいていると自覚しています。継続して発行しなければ意味がないので、今後は安定的に活動ができる体制づくりに力を入れるつもりです。

青海 大企業から協賛を受けるなど、**財政基盤が安定**することで、デザインや企画に才能あるスタッフを雇うことができます。そして、出版や企画などの各コンテンツを通して、里山に学生を送るビジネスも成り立ちます。今の時点で今後の方向性を明らかにしておいた方が良いのではないのでしょうか？

仁志出 現時点で言えるのは、フリーペーパーの発行に関しては、これからも有志が進めるつもりです。有志が興味、向上心を保ちながら、本当に多くの時間を費やして、気持ちを込めて制作するからこそ、そこからしか生

まれなアイデアや活動の拡がりがあります。これはお金を対価に求めている有志だからこそ可能な取り組みだと思っています。

青海 フリーペーパーの企画・編集をしている組織のイメージを外部に見せる努力も大事です。そうすることで、持続可能な団体だと第三者にも認識してもらえるのではないのでしょうか。さて第三者の目を意識すると、「能登奨学米」というネーミングは団体名なのか事業名なのか、判断に迷う人が多そうですね。

森本 そうなんです。この点は私たちの課題の一つです。

青海 現在は奨学米という取り組みを軌道に乗せる時期ですが、いつかは後輩に参加してほしいと考え

る時期がやってくるでしょう。サークルの活動が**楽しいだけでは発展しない**。いかにして、魅力を伝えるべきか方向性を探ることも大事です。

森本 予算の関係で募集人数には制限をかけています。一方で活動するためにはサポーターも集めなければなりません。農家さんと協力して、能登の特産のカキや中島菜を使ったうどんをサポーターに販売し、その収益の一部を運営費に回しています。

青海 企画としては面白いけど、もう少し簡単な仕組みを提示した方がよさそうですね。

森本 そうですね。継続的な運営を考えると、奨学米をブランド化して販売し、その収入を運営に回すことが理想です。将来的には、社会人になった奨学米生がお世話になった能登のお米を買うような流れを作りたいです。

青海 いかに自分たちの想いを分かりやすく、簡単なコンセプトで表すかは大切です。灯の場合、目的は定まっているので、問題は活動費用でしょうか。

宮本 現在、その件についてはメンバーと話し合っている最中です。今までは、助成などもあり、東北の被災地へ行くにも学生は宿泊代と食費だけを負担すればよかった。しかし、もう一度活動費用については真剣に考える時が来るでしょう。すでに参加費をいただくなどのアイデアは出ています。

青海 お金を払ってでも社会貢献をしたい人がいる一方で、無料だから参加している人もいます。

仁志出 少しならお金を集めてもいいと思いますが、それでも負担に感じる人はいるでしょう。



森本 明日美(もりもと あすみ)



能登奨学米代表

奨学金を「お米」に置き換えて、農家が学生にお米を無償で提供し、食生活の面で学生をサポートする「能登奨学米」というプロジェクトを行っている。



宮本 大輝(みやもと だいき)



能登見守り・寄り添い隊「灯」代表

能登半島地震で被災された方に、足湯でくつろいでもらいながら悩みなどに耳を傾ける活動を継続して行っており、東日本大震災後は岩手県陸前高田市でも足湯活動を展開している。



森本 難しい問題ですね。

宮本 8月に被災地へ行った時、参加者にこの話をすると意外にも「払ってもいい」という意見が多かったです。しかし、それだと次はリピーターしか集まらなくなるのではないかと心配をしています。

情熱か冷静か 組織には両方必要です

青海 就職難の時代だからこそ、学生にはボランティアやインターンなどに参加して、さまざまな経験を積むことを勧めたいですね。活動を通して、自分の能力や適性を知ることができます。もちろん情熱が無いとできませんが、先ほど話題にあがった組織づくりや資金集めでは冷静さが欠かせません。皆さんはこの情熱と冷静のバランスについては、どのような意見を持っていますか？

仁志出 情熱と覚悟が無ければ、そもそも有志は集まらないし、何も行動できないでしょう。私は里山への情熱があるからこそ、仲間とフリーペーパーづくりに取り組めるのかなと思っています。

森本 「自分はこういうことをしたい」という想いが伝わらないと人は動かせません。しかし、情熱だけでは決して組織の運営はできません。本当にバランスは大事ですね。

宮本 私たちは情熱が勝っていると思います。今年入会した後輩の中には、東北の被災地、陸前高田出身の学生もいます。本当にみんな熱い気持ちを持って、参加しています。正直、冷静さは足りてないですね。

青海 それでは最後にボランティアに興味のある学生へメッセージをお願いします。

仁志出 ボランティアでもなんでもいいので、自分の気持ちに素直になって何かに挑戦してみましょう。

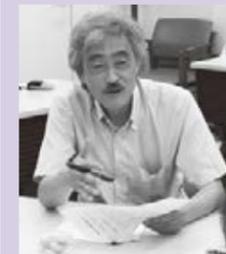
森本 私はこの奨学米の活動を通して、大きく成長

しました。ボランティアに取り組んでいる学生を見ると、熱意を持つ人がたくさんいるように感じます。気になる団体に飛び込んで、そこでしかできない経験を積んでほしいですね。

宮本 自分は足湯ボランティアを受けた経験から「これだ!」と信じて、突っ走ってきました。もしもボランティアに興味があるなら、まずは気軽に体験から始めることも一つの手だと思います。

青海 ボランティアは対価を求めない自主的な行為です。そのためには自分の納得がいく理由や動機を見つけることは大事ですね。本日はありがとうございました。

コーディネーター



青海 康男

(あおみ やすお)

(特)いしかわ市民活動ネットワークセンター(i-ねっと)副代表理事兼事務局長

NPOを支援するNPOとして、法制度の解説や組織運営の相談、行政との協働促進など石川県内における市民活動の基盤強化を目的に幅広く活動を行っている。



- システムがあれば人は集まる
- 組織の姿を公にすることは重要
- 続けるためには財政基盤が大事
- 楽しいだけでは発展しない
- 就職難の時代だからこそボランティア活動を
- 活動を通して自分の能力や適性を知る
- 組織にはさまざまな能力や考えが必要
- ボランティアは対価を求めない自主的な行為

青海語録



ユニカス会

代表者：宮前美智子 〈連絡先〉 電話：076-249-3496



○活動のきっかけ

2004年4月～2006年3月までの2年間、40年越しの夢が叶いJICAシニア海外ボランティアとして、カンボジアのユニカス児童施設で働く事が出来ました。その施設には子ども100人程にスタッフが40数名もあり、子どもと一緒に豚や鶏を飼い米や野菜を栽培して自家消費の他は市場へ出荷していました。大きい子ども達による算数、国語、英語塾は地域の子供達に無料で開放されていました。またその施設には常勤の看護師もおり、薬を無料で配布していたため、村人は3～4キロ離れた所からでも子どもを抱えて薬を貰いに来ていました。またクリスマス会等の行事には来る者は拒まずに持ち帰りのできる食事等をふるまっております。ユニカス児童施設は地域の医療センター、文化センターの役割を果たしていたのです。そして子ども達はユニカスの子であることを誇りに思っていました。



しかし平素の朝食はご飯と塩分の強い漬物がスプーン1杯位のみ。昼と夜はご飯とスープだけ、そのスープには野菜1種類に魚の切り身が2～3切れ。それを6～7人で分けて食べるのです。私は何度も園長に子どもの発達と食事の関係を話し改善を申し入れました。しかし園長は厳として受け入れてはくれませんでした。“いつまでも外国の世話になってはられない、自立するために畑を増やしたい。そのために削れるのは食費しかない”と言いきるのです。この園長は1994年プノンペン市内にあった自宅を売却して郊外に児童施設を作った人で、外国からの自立を考えている稀有なカンボジア人なので、その気概は尊重したいと思いました。しかし子どもの成長は待つはくれません。子ども達がありとあらゆる生き物を追いかけて蛋白質を補給している姿に自分の小さいころの姿が重なり、とうとう帰国1カ月前に10年間だけの食費支援を約束してしまいました。そしてその一月の間にカンボジア人としての食事をするのにあとどれくらいのお金が必要かも調べ、とりあえず半年間の食費を渡しました。

帰国後の8月新聞報道で集まった女性6人でユニカス会を立ち上げ今日に至っています。規約の「目的」には「ユニカス児童施設の自立支援及び開発途上国への理解を深める事」、「解散」には「ユニカス児童施設が外国からの支援を受けなくても自ら運営できるようになった時、又は概ね10年間」と謳っています。ユニカス児童施設は現在望ましい姿になっています。2008年からユニカスのOBが立ち上げた児童施設も応援していますが、そのOBに裏切られた事もありました。現在は園長が交替して、全てが初めからの施設となりましたので “手”も“口”も“足”も出ず状態になっていますが、全て「子どもの権利条約」を拠り所として働きかけています。

ユニカス会のパンフには “【目標】2016年の活動終期までに両施設が自立への確かな足がかりが掴めるように、そして、彼らが、カンボジアも「児童の権利条約」の締約国である事を知り、その理念が実現されるような土壌づくりに貢献できるようになればと願っています。”と書かれています。

2015年の活動の終期はそこまで来ています。会員も36個人と1団体に増えました。毎月の運営委員会で話し合う他、勉強会もしていますが【目標】が達成できるか心もとないものがあります。しかし「ユニカス会10年」（10年の経過と予定を書いた表）を毎年書き改めながら進んでいくしかないと思っています。



公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本 金沢グループ

〈連絡先〉e-mail: aijp21g@gmail.com
運営担当：前田和夫／電話：076-280-5610



○アムネスティ金沢グループとは

「アムネスティ・インターナショナル」は、すべての人の人間らしく生きる権利が実現されることを目指す国際人権NGOです。アムネスティ金沢グループ（略称）は、地域に暮らすアムネスティ会員が中心になって運営、活動している任意団体です。現在20代から50代の12名メンバーで、毎月20日過ぎの木曜夜に例会を行っています。

金沢グループは1980年5月に日本では21番目のグループとして結成されました。メンバーは入れ替わっていますが、日本海側では数少ないアムネスティの地域グループとして今日に至っています。

○地元でもアムネスティの活動を

32年前、思想信条を理由に囚われた非暴力の人（良心の囚人）を救援するというユニークな市民の国際協力活動を知った人たちが、グループを結成しました。ハガキを書くという小さな活動が、ひとりの命を救うことができる一専門知識がなくても、誰にでもできることから一と。

最近では、アムネスティのことを知らなくても、世界各地での人権侵害のことを知り自分にもできることを始めたいと参加する人たちがいます。ひとりでもできる活動ですが、仲間たちと相談し協力し、学びあうことができるのは、グループの強みです。

○こんな活動をしています

毎月の例会では、金沢グループが担当している「良心の囚人」救援の手紙書きやイベントの相談・打合せなどを行っています。必要に応じてミニ勉強会・ワークショップも行います。

外でのイベントとして、アムネスティ活動の紹介や、アピールハガキ書きの呼びかけ、人権に関心を持ってもらうための講演会・セミナーなども開催してきました。

12月10日の世界人権デー前後に全世界で行う「ライティング・マラソン」も地元で開催してきています。

アピールハガキ：アムネスティの基本的な活動のひとつ。人権侵害を引き起こしている政府機関などに対して、世界中の会員が是正を要請する声（手紙・葉書など）を届けることで、犠牲者を支援しようとする活動。犠牲者（たち）へは「あなたのことを忘れてはいない」という励ましのメッセージにもなる。

ライティング・マラソン：長時間に渡って多くの手紙（葉書）を書き続けるというアムネスティのイベント。書く事とマラソンをつないだ造語。毎年、世界人権デーの12月10日前後に世界各地で取り組まれている。対象となる世界各地の10あまりの人権侵害のケースについて、事実と背景、アピールする内容などが載った資料が用意される。



「ナイジェリア：石油採掘がもたらす環境破壊と人権」現地からのゲストによる講演



国際交流イベントでアピールハガキ書きを呼びかけ



グループ活動を活性化させるためのワークショップ



「ライティング・マラソン」で手紙・ハガキを書き続けました

「教えて! i-ねっとのあおみさん」



非営利団体のためのQ&A シリーズ ⑨ いしかわ市民活動ネットワークセンター 副代表理事/事務局長 青海 康男

Q 平成24年4月1日からNPO法が改正になって「収支計算書」から「活動計算書」に変わったと聞きましたが、どこが、どのように変わったんですか?



A 今までは「収入」から「支出」を引いた「当期収支差額」という考え方でした。NPOは利益を上げることが目的ではありません。まず先に活動があって、それにかかったコストを「費用」と呼び、それをどのように賄ったかを「収益」と呼び、その結果1年で増えたり減ったりする財産を「当期正味財産増減額」と表します。

その組立を見てみましょう

(1) まずは「財務諸表の注記」を作成(ふたつの事業しかない場合) (2) それを所轄庁に提出する「活動計算書」へ

科目	A事業	B事業	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益					
1. 受取会費			●●	●●	●●
2. 受取寄付金				●●	●●
3. 事業収益	●●		●●		●●
4. その他収益		●●	●●		●●
経常収益計	●●	●●	●●●	●●	①
II 経常費用					
(1) 人件費					
給与手当				●●	●●
スタッフ人件費	●●				●●
人件費計	●●			●●	②
(2) その他経費					
講師謝金	●●		●●		●●
旅費宿泊費	●●		●●		●●
通信運搬費		●●	●●	●●	●●
地代家賃				●●	●●
水道光熱費				●●	●●
その他経費計	●●	●●	●●	●●	③
経常費用計	●●	●●	●●	②+	③=④
当期経常増減額	●	●●●	●●	●	①-④

科目	金額	
I 経常収益		
1. 受取会費	●●	
2. 受取寄付金	●●	
3. 事業収益	●●	
4. その他収益	●●	
経常収益計		①
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
スタッフ人件費	●●	
人件費計	●●	②
(2) その他経費		
講師謝金	●●	
旅費宿泊費	●●	
通信運搬費	●●	
その他経費計	③	②+③
事業費計		=④
2. 管理費		
(1) 人件費		
給与手当	●●	
人件費計	●●	⑤
(2) その他経費		
通信運搬費	●●	
地代家賃	●●	
水道光熱費	●●	
その他経費計	⑥	⑤+⑥
管理費計		=⑦
経常費用計		=⑧
当期正味財産増減額		①-
前期繰越正味財産額		⑩
次期繰越正味財産額		⑨+⑩

(1) 「財務諸表の注記」は「活動計算書」をつくる時に便利なものです。縦列に事業ごととその合計。管理費も区分されます。科目は共通の横軸で使います。縦列のそれぞれの収益から、その下の費用を引くと、各縦列の費用との増減が一目でわかりますね。

(2) これを基に提出する「活動計算書」に振り分けます。収益の欄は一本なので注記の合計をそのまま書きます。経費は二本立ての事業費と管理に振り分けます。さらにそれぞれの人件費とその他の経費に振り分けます。今期の増減額に前期の正味財産を加えると、次年度への正味財産がわかりますね。

※これは例です。団体の実情に合わせて事業、科目を作ってください。また、固定資産や借入金などは「注記」として、別表に記載します。

同額

さらに詳しいことを知りたい場合は下記のHPを参照してください。
「みんなで使おうNPO法人会計基準」<http://www.npokaikeikijun.jp/>

ちょっと気になる、いしかわのNPO

vol.32

NPO法人 輪島土蔵文化研究会

理事長 水野雅男さん



土蔵修復が人を育て、新たな街をつくる

危機感と使命感が原動力

NPO法人輪島土蔵文化研究会(以下、輪島土蔵研)は、2007年の能登半島地震発生後に設立しました。建物内部の湿度や温度を一定に保つ土蔵は、ここ輪島でも輪島塗や日本酒を造る上では欠かせない産業装置の一つとなっています。だからこそ、地震で被害を受けた土蔵が次々と取り壊されている現状を目の当たりにした時、「このままではこの街の重要な産業基盤が無くなってしまおう」と危機を感じました。「とにかく土蔵を潰してはいけない」という使命感が活動の原動力です。

私自身は地震発生の数年前から、輪島・鳳至上町の街づくりを地元の皆さんと協力しながら進めていました。そのため、輪島土蔵研の活動では被害を受けた土蔵を元の姿に修復するだけでなく、セミナーハウスやライブ空間、漆器ギャラリーなど人々が集える新たなスペースとして活用することも意識しています。現代的な感覚で蘇らせた土蔵に新しい価値を加えることで、街の魅力と回遊性の向上につながると考えています。



参加者を惹きつけるプログラム

一連の事業に欠かせない資金集めには苦労しています。国の補助金や助成金、各種支援制度などを利用する一方、輪島土蔵研としても寄付に対して輪島塗をプレゼントする「土蔵からのサンキューギフト」を企画するなど、独自の方法で活動資金を募っています。お金には苦労していますが、人には大変恵まれています。今年8月に開催した活動5周年感謝祭には、県内外から約90人が集まりました。参加者の皆さんが交流している様子に、これまでの活動で築き上げてきたものを実感できました。

土蔵の修復には左官技術を要するため、職人の力が欠かせません。輪島土蔵研の活動には、優れたベテランに混ざって若手の職人も「ぜひ勉強をしたい」と参加しています。土蔵修復が左官技術を学ぶ貴重な機会となっているわけです。

さらに学生も県内外からやって来ます。建築を専門的に学んでいる学生は意外と少なく、目的は本当に人それぞれです。土蔵造りに使用する建材を研究するためにワークショップのたびに東

京から通う学生や、地元の人や職人との交流を楽しみにしている学生もいます。ある学生はこの活動を通して、かまどをデザインしました。プログラムごとにさまざまな取り組み方や関わり方ができるのも、多くの人を輪島に惹きつけている理由ではないでしょうか。そして、皆さんが土蔵の修復を通じて、日常ではなかなか得難い経験をしているようです。

東北に仕組みを伝えたい

私たちの活動の根底には、社会的な問題を解決する目的があります。そのためには課題を定め、実行することが大事です。そして社会的なニーズさえあれば、自然と人は集まり、大きな力となります。輪島土蔵研は今年5周年を迎えました。発足当初に思い描いた土蔵文化を守り、職人を育て、街をつくる活動は順調に進んでいます。そして、まだいつになるかわかりませんが、同じく被災した東北にもこの仕組みを伝えられればと思っています。



■データ■
NPO法人 輪島土蔵文化研究会
〒929-2379 石川県輪島市三井町長沢1-49-3
TEL 0768-26-1666
URL <http://wajimadozo.sakura.ne.jp>

INFORMATION

助成金ニュース

石川県NPO運営能力向上支援事業補助金

NPOが会計・税務等の専門アドバイザーによる実地指導を受ける場合に、その費用の一部を助成します。

- 補助対象経費/アドバイザーの謝金及び交通費
- 補助額/実際の経費か別に定める基準額のいずれか少ない金額の3分の2で、上限2万円(年度内1回限り)
- 申請方法/実地指導を受ける2週間前までに申請してください。必要書類は、交付申請書、補助事業計画書、予算書、定款(会則)

お問い合わせ

石川県NPO活動支援センター 「あいむ」
〒920-0961 金沢市香林坊2丁目4番30号 香林坊ラモーダ 7階
TEL:076-223-9558 FAX:076-223-9559
E-mail: npo@pref.ishikawa.lg.jp
☆詳細はこちら⇒ <http://www.ishikawa-npo.jp/info/120401josei.htm>



ボランティアに関する講習会等助成事業

- 助成対象事業
 - 1.県内のボランティアグループ等が主催するもの。
 - 2.ボランティア精神の普及や団体等におけるボランティア活動の充実、発展に寄与するもの。
 - 3.10人以上の参加者が見込まれるもの。
 - 4.参加者から参加費を徴収しないもの。徴収するものであっても、その金額が必要最小限と認められるもの。
 - 5.政治活動や宗教活動を目的としないもの。
 - 6.不当な参加資格を設けていないもの。
 - 7.この助成事業について他の団体等からの助成を受けていないもの。
- 助成対象経費/講習会等において指導等を行う外部講師の謝金及び交通費とし、助成金の総額は5万円以内(年度内1回限り)

お問い合わせ

(財)石川県民ボランティアセンター
〒920-0961 金沢市香林坊2丁目4番30号 香林坊ラモーダ 7階
TEL:076-223-9558 FAX:076-223-9559
☆詳細はこちら⇒ <http://www.ishikawa-npo.jp/volunteer/koushu.htm>



東日本大震災で活動するボランティア・NPOのみなさんを支える助成金

- 助成対象となる活動
 - ◇東日本大震災で被災された方々を支援するボランティア活動全般
 - ◇被災地における活動だけでなく、全国の被災者の避難先、原子力発電所事故に伴う住民の避難先における活動。
 - ◇いずれも2011(平成23)年3月11日以降の活動について対象とする
 - ◇すでに活動が終了した部分についても、さかのぼっての応募を可能とします。
- 助成対象団体

5人以上のボランティアグループからNPO法人や社会福祉法人などの団体
- 助成上限額
 - ①短期:おおむね1か月未満の活動 50万円以内
 - ②中長期:1か月以上の活動 300万円以内
- 応募の受付時期と決定時期

12月10日(月)~2013年1月10日(木) 助成決定時期 2013(平成25)年3月下旬(予定)

お問い合わせ

社会福祉法人 中央共同募金会 赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」助成事業
最寄りの都道府県共同募金会 URL:<http://akaihane.or.jp/about/prefecture/index.html>

講座開催のお知らせ

一日丸かじりNPO入門セミナー

NPO法人を運営していく上で必要不可欠な設立申請手続きや会計・税務、労務、登記の基礎知識を1日で学びます。
NPO法人に興味があるけど何をすればいいのかわからないという方や、NPO法人の事務を急にお願ひされてしまった方におすすめです。

- 日時:平成25年1月6日(日)、13日(日)、20日(日)、27日(日)の10:00~16:00
<すべて同じ内容の講座となりますので、都合のつく日にお申し込みください>
- 申込:(特)いしかわ市民活動ネットワークセンター(NPO法人i-ねっと)
〒920-0865 金沢市長町1-3-40
TEL:076-232-6673 FAX:076-232-6674
- 場所:石川県NPO活動支援センター「あいむ」
(金沢市香林坊2丁目4番30号 香林坊ラモーダ 7階)
- 主催:石川県・NPO法人i-ねっと

NPO活動支援センター「あいむ」を活用してみませんか?

「会議をする場所がない」「チラシを大量に印刷したいけどお金があまりない」「助成金の情報が入ってこない」といった悩みを抱えていませんか?「あいむ」では市民活動を行う際の悩みを解決するため、様々なサービスを提供しています。
営利を目的としない、公益的な市民活動を行っている県民の方であれば、NPOの法人格の有無に関わらず、どなたでも使えます。ぜひご利用ください!

利用方法等、詳しくは下記の番号に電話してお問い合わせください。
TEL:076-223-9558

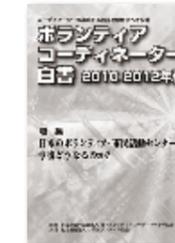
「あいむ」のいいところ!

- 1)20名まで収容可能な会議室が無料で使えます
- 2)印刷機や紙折機等の機器が利用できます
- 3)助成金や支援制度といったNPOやボランティアにとって重要な情報がそろっています

新刊・おすすめ図書を紹介



地域福祉から未来へ
社協職員が向き合った 3.11
編集 「地域福祉から未来へ」編集委員会
発行 全国コミュニティライフサポートセンター 発
定価 1,000円(税込)
発行年月 2012年3月
2011.3.11東日本大震災の発災以来、被災地社協や被災地社協の支援で奮闘し続けてきている宮城県内市町村の社協職員有志14名による「手記」等を綴ったブックレットです。



ボランティアコーディネーター白書
2010-2012年版
編集 日本ボランティアコーディネーター協会
発行 社会福祉法人 大阪ボランティア協会
定価 2,520円(税込)
発行年月 2011年2月
2007~2009年の日本のボランティアコーディネーターの現状や動向を、論説とレポートで示す。コーディネーターの追求する価値と果たすべき役割を検証。
特集:日本のボランティア・市民活動センターは、今後どうなるのか?

本誌に関するご意見、ご要望をお寄せください。

石川県NPO活動支援センター (金沢市香林坊2丁目4番30号 香林坊ラモーダ 7階)
TEL:076-223-9558 FAX:076-223-9559 E-mail:np@pref.ishikawa.lg.jp